



童子教讀
下



孝皇子教談解本

臣瀨乃教孝 聖德太子

これな事は史記列傳傳をこれ二十六に記す... 臣瀨乃教孝... 聖德太子... 孝皇子教談解本... 臣瀨乃教孝... 聖德太子... 孝皇子教談解本...

Handwritten marginal notes on the left side of the page.

劉子新
論曰蘇
生患睡
親錘其
股

よむそれをたふし急に病くさるそとあまきつりたる人わり
匡衡これ人ふあつていかにいれてかうさく一たりあるをいふ
てあつてあつてさうさういふふまゝ人あや一してそれさういふと
なれば匡衡がいふと孫がいくいふとこれとよゆへとわがのだと
明りさういふ人そのふとさういふとさういふとさういふとけんはち
にほわふせよこれともいふとさういふとさういふとさういふと
月あつてさういふとさういふとさういふとさういふとさういふと
たさういふとさういふとさういふとさういふとさういふとさういふと
つりさういふとさういふとさういふとさういふとさういふとさういふと

孫敬の字子文

困る不真

楚の太子を殺すに孫敬とあつたとき父室のいひま
楚の太子を殺すに孫敬とあつたとき父室のいひま

りんがさういふとこれの字のいふとさういふとさういふとさういふと
れつといふとさういふとさういふとさういふとさういふとさういふと
ふまゝ人いふとさういふとさういふとさういふとさういふとさういふと
めささういふとさういふとさういふとさういふとさういふとさういふと

蘇秦の字子文

誰刺股不眠

史記の面をこれいふとさういふとさういふとさういふとさういふと
蘇秦は誰刺股不眠とさういふとさういふとさういふとさういふと
とみくつとさういふとさういふとさういふとさういふとさういふと
又わがほまも様子布とわりておつたさういふとさういふとさういふと
れつとさういふとさういふとさういふとさういふとさういふと
史記の面をこれいふとさういふとさういふとさういふとさういふと

童子以下

さざりてせむらひそことさりて魏人の法儀といふ二
人こそは鬼谷先生といふ人と仰こくかろんとはしめん
げじも一事とよびうらに練なりがささる難とらふく足
りもと所とせむらひとてさる血うらなくそのさるゆゑあつそ
ゆきりはおかろんれでうはりりくゆももさるゆはど
よきぬ事いさき一寸れ日つげのさるともにむしてはあ
らるる高の味純しく汝玉にまはれく玉桐といふ高小丸
りふまの徳養もんとはるぐくして蘇秦にあつひくは蘇
秦を徳養ならに祝事とさうりてこそと佩くわがむに
わらうれとめむさざりしあまよめも様よりけりわがほまも
六十里ほどびひひいでるそれと蘇秦あまよめはくさるく
いとくびり日れとみくはさざりし人ぐいゆ六十里かどひら
ひふおひるふ事ふつとてこそいとくいゆ玉桐と子宮にな
られくふまは徳養の祝事おびてさうり名とて下はわけ
おぼらままでの外字とてまはれままでびひひとてさた
れとこそあふとてさうりしとくわがく徳養人ふらりし
れはさざりしとてさうりといつ徳養と一玉れわがむに
後教といふ人よばいまさうんぐふあふある孫教うとてあ
やまのくお徳とまけらるる徳養子孫教がうらんとはと
しるこそと繩とくびひひそれとをれうはられうはうけ
てにたり

後教といふ人よばいまさうんぐふあふある孫教うとてあ
やまのくお徳とまけらるる徳養子孫教がうらんとはと
しるこそと繩とくびひひそれとをれうはられうはうけ
てにたり

後教といふ人よばいまさうんぐふあふある孫教うとてあ
やまのくお徳とまけらるる徳養子孫教がうらんとはと
しるこそと繩とくびひひそれとをれうはられうはうけ
てにたり

車胤好夜学
取燈螢乃有矣

晉書云云

張儀補新古

枯木苑集矣

史記列傳第十と接するに張儀は魏人なりと云ふ蘇秦と
とてに鬼谷先生賦詠しうとく字術とほとめたりそん
もはひのくふふちわうごまなほよぬとほつりちわうごりく
らん朱純してあこれ張儀とちのどを落したち入る軍法とこ
さひろめたり楚をれまうたあごりて所張とくそれらゆ
楚の金相れ張とてうまのまじらるゆにれ人そ落れ
らわうごとうごひくいとくちわうごは家内れれれこれ
相忍のたゆとぬをむらる下とて然しちわうごとうご
殺百ごりりしりこれ五刑れうたぬを人とはえとて
ほまゆへなりそれごちわうごはぬをゆぬふはゆごこれ
とゆるたそのはゆちわうごにえやうらちちとよそあ
りまはちわうごりくこれとてわくごちちわうご
がいとくわが張とてよありわそれほまらあていれく
ありちわうごりいとくちわうごはたぬせりごかくれご
ちわうごはめいよれんごのまてありける新古とて新の
ちとごの叙あらう古はまのへれあたり枯木とてこと
ひごまらちわうごり古を承れその印紙よめはゆの
ごのりごごりまはしんるれ本もらんごりごり
ごごりごごりまはしんるれ本もらんごりごり

文選魏都賦註李周翰曰張儀張祿英雄辯舌榮枯在
一朝能濟時厄 又鏡機子七啓首鏡機子曰夫辯言之
艷能使窮澤生流枯木發榮

張儀補新古

古骨苑均膏自矣

志色先生と云ふ人の三寸の舌と教してそのといひの事
亦も亦も一言のひかきなりといふ事も亦も亦も
やうかといふ事や空海大師の三教指図の事なりといふ事
りしふあはれ志色先生包の事なりといふ事志色先生
その名とりし事なり其の儒教と云ふ事なり其の史
記と云ふ事なり其の史記と云ふ事なり其の史記と云ふ事
これ志色先生の史記と云ふ事なり其の史記と云ふ事
志色先生の史記と云ふ事なり其の史記と云ふ事
老といふ事なり其の史記と云ふ事なり其の史記と云ふ事
ありし事なり其の史記と云ふ事なり其の史記と云ふ事

左傳云遠子馮曰吾見申叔夫子所謂生死而肉骨也

伯英九氣初

早の情士位

伯英名世類苑ゆゑに軍人といふと按ずるに伯英わが
といひる狼邪れ人なりといふ事なり其の史記と云ふ事
七氣の初九氣なり其の史記と云ふ事なり其の史記と云ふ事
れといふ事なり其の史記と云ふ事なり其の史記と云ふ事
ひろくもあはれ志色先生の史記と云ふ事なり其の史記と云ふ事
ひがりれりかよふ事なり其の史記と云ふ事なり其の史記と云ふ事
大印記をいふ事なり其の史記と云ふ事なり其の史記と云ふ事
といふ事なり其の史記と云ふ事なり其の史記と云ふ事

應劭漢官儀曰博士秦官也博者通於古今士者辯然否孝
武建元五年初置五經博士云云

宋史七十物

好學子養師傳

獻徵録三百八十七巻と按ずるに宋史といふ人の先記より農

ろく 金とれし其に金とてたけとてまじきこと又二家より
ろく 梵捕夫のたつるを捕囚とてくまに十名戒めたり
ろく 夫とれし其の國にのりて國を及捕囚たりとてたけ
わぐとあげたりとてと樹といひよこりひたきこと國を
と津浦が流よりけり戒めたりとてくまに十名戒めたり
ろく 其の國よりけり戒めたりとてくまに十名戒めたり
奈柳半に懸に為とたりとてくまに十名戒めたり
ろく 及匠監耶とわりの流とてくまに十名戒めたり
びとたりとてくまに十名戒めたりとてくまに十名戒めたり
ろく 及寄係といひまじき國城といひまじきあるとてくまに十名戒めたり
れがうとてこの味よわらふといひたり

智者化罪也 大に墮地獄

愚者化罪也 少に墮地獄

これ國の大殺淫殺未済のころ流とてくまに十名戒めたり
ろく 及けりとのくまに十名戒めたりとてくまに十名戒めたり
ろく 及けりとのくまに十名戒めたりとてくまに十名戒めたり
れと智者とてまじきこと戒めたりとてくまに十名戒めたり
ろく 及愚者とてまじきこと戒めたりとてくまに十名戒めたり
ゆることとてくまに十名戒めたりとてくまに十名戒めたり
ろく 及けりとのくまに十名戒めたりとてくまに十名戒めたり
ぢりひとけりとのくまに十名戒めたりとてくまに十名戒めたり
癪れとてくまに十名戒めたりとてくまに十名戒めたり
又智者のくまに十名戒めたりとてくまに十名戒めたり
ろく 及けりとのくまに十名戒めたりとてくまに十名戒めたり

るりたるへの恒河のあり二神れ恒河とがけけがらう一むじもの
そのあがりひとをばつさる物りことあり又源儀如素の住生也
集とていひ人のことたの思と流りそれれはことわること
とていひ人の智人の思とつれとていひことわることとわること
たといひらるひと火を燃え地よとていひ人それとれとて
よとていひ人わけたることとわることとわることとわること
うち恒河ひたもとていひ人わけたることとわることとわること
心もかたこととて思ひい流り流り流り流り流り流り流り流り
ゆへに流り流り流り流り流り流り流り流り流り流り流り流り
こ流り流り流り流り流り流り流り流り流り流り流り流り流り
大藏一覽曰愚者小懲終大報智人重業却輕償

愚者小懲終大報

智人重業却輕償

智者常懷憂

猶如光音天

正法念經偈曰智者常懷憂而似獄中囚愚人常歡樂
猶如光音天 往生要集卷三
い海のまき子あまたれ流り流り流り流り流り流り流り流り
ひようとととけりこれ思ひあやゆりなるりたるり
志の心ゆりかたせりり心流り流り流り流り流り流り流り流り
こよりこれ流り流り流り流り流り流り流り流り流り流り流り
ことあしことあしひよまえげりりりりりりりりりりりりり
ころみりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
まうにまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう
獄中のまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまう
せるといひ二まうまうまうまうまうまうまうまうまうまう

このひ又とて事といひ又國とて子とあり又因の字とて字彙
に飛人かるといひて又事ありてちとて口の中に入るといひ
めとて又事ありて飛とて流るとてとてとてとてとてとてとて
ぞとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
ふとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
しとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
幾葉とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
ふとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
勢とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
いとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
海といひとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

父慈をむら山

須弥山高下

安溼深林海

滄溟海還海

とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
父の慈いふよりもたるといふよりそとてとてとてとてとてとて
ひまうとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
あうとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
ふとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
はつむひたりとて三百二十とて萬里なりとてといひて又あんぢとて俱舎
の經とてまたたるとていひるるとていふとて八万四千とてありとて
舎羅とていひてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
たるとて八万四千とてありとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

觀心畧要集曰漁父濟江河鱗背大士之兼濟獵者之徒而
野蹄永違菩薩之悲願

為資且苦寒下

日本造忍業

為嗜的夕味

每却淨地獄

此等言及約々のしるりわさつれいのりたきけやし
んあめし日取ふ十忍業のやとせられつるせしき
いとほくらり梵網經の十重禁戒をし教生戒と
めよとささかふ約々のわらひとさめつてそれと
のし裏よりとさめつてよその業よひれくぬ切のあ
と地獄は深きとて教戒のつらとささくらりたりと
こはとささかふのしよしぬ切は切とほくはらりたり

ゆるり切るとは芥子のうごめしてはり又天人れを
てたるとよとよと統統のさふあまこわきと色いほ
いささき事とささくらり俱舎論よそれのささくら
そとそれと刹那とささくらり俱舎論よそれのささくら
切ととささくらりたの教生のつらとささくらり切れ
わひと地獄のつらとささくらり切れ

戴冠と不知

如樹鳥枯枝

善惡と不思

如野鹿損草

遺教經云譬如大樹衆鳥集之則有枯折之患
知世人是於高生といつり

自後打を父

天雷吼を父

峯家求吉山歎郷有派の九れまきことんうち子自後打唐
の世のひとありそのひまれつきこころうりつひまたきと
うりて世とくくありあるは深山たきことんはは夜
へくあまふ父いりてこころあまふ入い息にころこ
ころなりとて流しころちやふふれは自後打ならぬたき
とまひころ杖まてちのころたとら流そのとれえあつれく
りり地えんをさねまてわづらそのいえれうまはちう
つかに自後打と流してそのののの死骸とさねわづ
て自後打よとてあまふころよりまてはせまに流あつれく
自後打父天報裂方とて八字なり自後打とら山天のむ
くひはは方とてころとてころ流あり

張師正拈異記を母

張師正拈異記を母

張師正拈異記を母とてあまふは張師あまふは張師
潼山子右徑せりはひの母とてまういりありあまふは張師
ころれゆく潼山の巴地とてころとてその人ころとてころ
は正約子悪言四言とてころ

郭巨方妻を母

郭巨方妻を母

郭子傳とてんがまふは郭巨は漢の世れ人ありあまふは郭
ていりれはひころとてやうなまうれつはひらりれ子とら
じ三葉よびまふとてころとて念也とてはけて流まらせり郭巨を
の流まはころとてころとてあまふは郭巨とてころとて郭巨を
るあまふは郭巨とてころとてあまふは郭巨とてころとて郭巨を

いふは明くさうわかれごとくしてこれにその意のたに
いつこつわきいでてその下り毎約経が三款づつとらりてこれ
へらわとらりてこれにそかへけりてなりこれと自序とて
て水とらりていふはまづことゆらうことまじまじいふは事と
李穡叔が典言はものせうりて書はな毎約字土遊といひ

孟宗哭竹中

深雪平杖筆

晋張方が楚王先賢傳とわんごるん孟宗が母は人かとして
まことめりてこれ死がわくのちこれふ世の節ゆきをいふを
らる内日ごゆりてこれるものまじまじとせられしこと
竹のまじまじとせしを孟宗竹ありてまじまじいふはまじまじ
こまじまじとせしをたえんかたえはひわくこまじまじとせし
こしてこれまじまじとせしをたえんかたえはひわくこまじまじとせし

明り孫叔よりわんごるん孟宗とて子官はなれり又孟宗あり
孝子傳とわんごるん孟宗は孟宗といふは孟宗といふは孟宗といふは
をりてこれつとらりてこれつとらりてこれつとらりてこれつとらりて
このじまじまじはひまじまじとせしをたえんかたえはひわくこまじまじとせし
は月まじまじとせしをたえんかたえはひわくこまじまじとせし
哭らわとらりてこれつとらりてこれつとらりてこれつとらりてこれつとらりて
ごごご二端あり孟宗といふ書に孟宗の名の孟宗といふは
太の傳れ中にその月とある故に深雪れなりとてこれゆきもゆ
きまじまじとせしをたえんかたえはひわくこまじまじとせし
みく大まじまじとせしをたえんかたえはひわくこまじまじとせし
といふとわんごるん孟宗といふは孟宗といふは孟宗といふは孟宗といふは

孟宗哭竹

笠凍上頭臭

舞臺
而飛下
之談見
于千字
文注

重花母よりんちりちと響史と名流く父様の流由とめ
わりのまゝと懸こい子み返すくくくくくくくくくくくく象はらり
舞より響のわりのはのはまつひは懸ひとて舞とて流
とてある付のられくくくくくくくくくくくくわがため舞と
流とて懸流はれ流とて流とて流とて流とて流とて流とて
とめくくくくくく舞とて流とて流とて流とて流とて流とて
ふとくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
下より流とて流とて流とて流とて流とて流とて流とて流と
びとくくくくくく流とて流とて流とて流とて流とて流とて
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
舞とて井とて流とて流とて流とて流とて流とて流とて流と
るんれんその心とて流とて流とて流とて流とて流とて流と
らくくくくくく流とて流とて流とて流とて流とて流とて流と

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
てふ流とて流とて流とて流とて流とて流とて流とて流と
は流とて流とて流とて流とて流とて流とて流とて流と
せいとて流とて流とて流とて流とて流とて流とて流と
たてわが流とて流とて流とて流とて流とて流とて流と
そのい流とて流とて流とて流とて流とて流とて流と
流も流とて流とて流とて流とて流とて流とて流とて流と
ちちんとて流とて流とて流とて流とて流とて流とて流と
耕て流とて流とて流とて流とて流とて流とて流とて流と
ふふちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
と食地とて流とて流とて流とて流とて流とて流とて流と

の二月にわひごまをわく子とゆひけしうり又はらにわぬるり
てまよまよけしうりふ数なる幸なりその子仙人と云たり

楊威念獨母

虎ちの嘴先害

刺殺心算り忠考圖賢まされ十七とわんせ所に楊威と
うまこた山よ入て獵と有りひらぬ虎さうりてまよまよ
らんとて楊威がけぬくいさくまひひらぬ老母ありい海
えんげにらまこまよもいさくまよまよとひひらぬわいれと
ひれどまよありまよちたふまよまよなり

顔鳥墓員土

鳥鳥系運煙

廣興たしままされ十金花府の人物類とわんせ所に漢の總

鳥は鳥傷とてよと流の人なりし死してあとなりて墓
とほく鳥ひじりうりてはちとふらとてその墓は
らぶそののうまのちらぶらまよありわらゆまよそのと
流と名流あり鳥傷とてよと大明一統志四十二にゆら金花
府の陵墓類とありわらとてまよらに顔鳥と墓とのせりそ
れ流とらぬ鳥鳥とてよと流のひびくは里とまよとて石碑
ありとてらぬ鳥鳥とてよと流の二十八年美苑部よの東陽の顔鳥
こありとて鳥傷とてひらとて流とまよとてありとて鳥鳥

行政自化墓

松柏植化墓

行政とてよとせら流布のたよ行政とてよとわらゆら廣
興純のゆらとて十金花府人人物類とてひらとて流とまよとて

位三より大威極みより智徳より名譽者七よりなり
降八より禮備九より上敷十より下敷より又又津名疏
のなりをせり然るべきゆへにせむ須聖のてしに徳を
そめて人よりそりしるるも其の流りいどや
ひらりちりざりてゆへに流り紙紙給紙給園よとわく死
せりちりちりいんせりわりの後紙紙清由この三より信給の
りこととれり三教指授は正以辨尚とありてこのりて

何有七寶

世買校考

名義集よその三教正論よりの家ありいへの輪加わ
向ひへの輪柯よりいへ無憂王とあり七寶とありと
りよは金輪宝とあり白象宝とあり及辨の宝とあり
神徳宝とあり玉女宝とあり金輪宝とあり

とあり大衆百福法教相經とび修訂平記論のと巻よ
でより三教法教由この二十の十一十二十三ははわりまげさ
とにそれくの世にの育る金銀法寶とわくあり
たる形なるゆへに南園字提よ八方に子れ塔とてせられる
本教法清のゆへに五の尊王遊八万字子塔とよりわ
りより、此目よももびりへの育るの塔とせられ
若き子孫法偈翼考の上よは流びりてよりへの育る
成宝とありたるらるるまのまごもよりとありて
奉命とよりへのなるなり
蔡伯喈陳仲弓碑曰命不可贖註翰曰言人命有分死不
可以重宝賤以贖取生

月夜思

珠玉使

信受者
大論信
力故受
念力故
時

一句信力

超持極位

中偈同法

勝之子界

一句一偈の両端と信ぐらひありしも此界のありし極
其のくわわさくころ持極まといふ名義集三帝王位と云んば
天竺のくわわに所加羅伐赫底身羅園と云あつひ渡也越と
云ふよりしころ持極まといふころあつ人ののち八万衆の
まの持極まといふころあつ人ののち八万衆のまの持極まといふ
と云ふころあつ人ののち八万衆のまの持極まといふころあつ
雪山童子のころあつ人ののち八万衆のまの持極まといふころあつ
寂滅の樂の持極まといふころあつ人ののち八万衆のまの持極まといふ
てころあつ人ののち八万衆のまの持極まといふころあつ

と云ふころあつ人ののち八万衆のまの持極まといふころあつ
子の御深まといふ子の天下にまの持極まといふ子の御深まといふ
は天下子の初れまの持極まといふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
ことと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

華嚴經曰若聞一句一偈未曾有法勝得三千大千世界滿中
七寶及釋梵轉輪王位祕藏寶鑰卷中云滿界財宝不如一
句之法恒沙身命不此四句之偈

上須求仏道

中不報四恩

下徧及六道

共不成仏道

上の成仏のたると云ふよりあ生死といはるるものと云ふものと云ふと

華嚴經

三

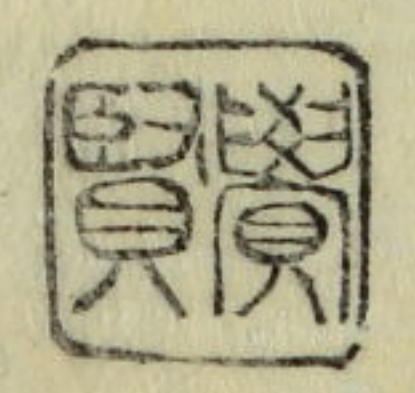
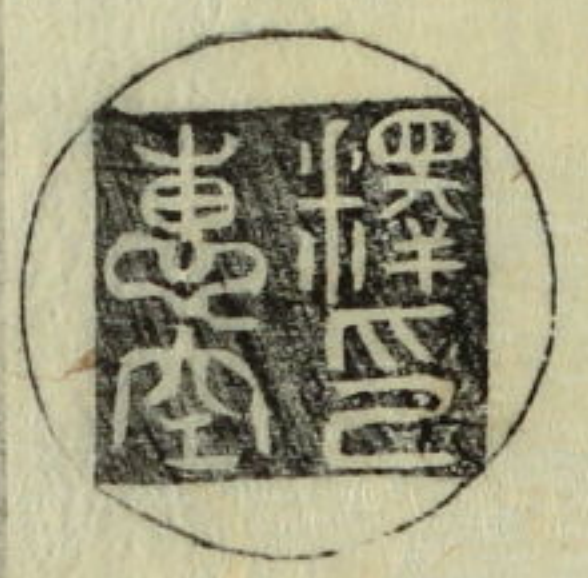
之云今此
書聞者
不生笑
則信之
者後世
之揚子
雲不知
有笑之
如歎天
玄經也
揚子雲
事出韓
文

多子のいゆめとらるる事自よるものも此縁と事と
て年よさうくものもあざらうとて生せし事とし
晋水澤源師發微録云城外治於心謂之内教域中治乎身
謂之外教 誹謗者玉篇謗補浪切誹也人道其惡
上よりこのこといふれいとめてく海なる事とていとおそく

童子教後解 次

弱山僧惠空志學之歲誌

招月亭孤峯 校



寛文十 庚戌年九月板成

書林

洛陽中野小左衛門

